



なつめ 6月号

〈編集・発行〉
鹿児島市立喜入小学校
〈発行日〉
令和3年6月22日

自己肯定感を高める

校長 内村 英人

本号に運動会の記事を載せてあります。その中に、6年生の感想を掲載していますが、何度も読み返したくなる文章です。

「みんながんばったけど、おしくもやぶれ負けました。とっともくやしかったです。でも、くいは、ありません。だって、6年間で一番楽しい運動会だったからです。」

読んでいて、じいんとなります。負けてくやしかったあの日を肯定的に受け止めている姿には、私たちが学ぶべきものがあります。自分がしたことを、そして、自分自身をよかったことも悪かったことも含めて肯定的に受け止める姿は、本校の教育活動において大切にしたいと考えているものです。

本年度、本校は、具体的な数値目標の一つとして、

「学校楽しいーと」の「自己肯定感」「学級集団における適応感」の得点 12点以上

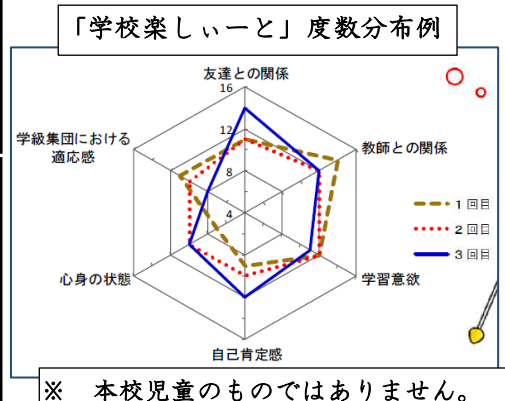
というのを掲げています。（「令和3年度 喜入小学校 グランドデザイン」を御参照ください。）

「自己肯定感」とは

自分自身の長所も短所も含めて、ありのままの自分をかけがえのない存在として肯定的、好意的に受け止めることができる**感覚のこと**

「学校楽しいーと」

県総合教育センターが、鹿児島大学の御助言をいただいて開発した子どもたちの学校適応感を調査するための質問紙。六つの観点（友達との関係、教師との関係、学習意欲、自己肯定感、心身の状態、学級集団における適応感）で、子どもの状態を分析することができるようになっており、各観点の最高得点は16点という設定。



1 学期の本校の子どもたちの自己肯定感の得点は、10点前後でした。

本校の子どもたちに限らず、日本の子どもたちは、諸外国と比べ、自己肯定感が低いと言われています。自己肯定感を高めるポイントとして、以下のことを心掛けることが大切なようです。

- ◇ 自分を見つめる機会をつくる。
- ◇ 長所や成長、頑張り等を認め、気付かせる。
- ◇ 他者とのかわりにおける自分のよさに気付かせる。
- ◇ 短所を受容する。
- ◇ 役割を設定し、集団の一員である喜びを味わわせる。
- ◇ 短所も見方を変えると長所にもなるという考え方を教える。



子どもたちが、自分らしく生き生きと学び成長できるように、日々の学習や遊び等における子どもの様子の観察、そして、学校楽しいーとを活用した客観的なデータによる分析等と合わせて実態を捉え、自己肯定感を高める取組を進めたいと考えています。